

参考：オンライン・プラットフォームが生み出す「大きな循環」と「小さな循環」

課題・目的

都市化や価値観の多様化によって、行政だけでは担い切れない地域課題が増える一方で、地域活動に参加する住民は減少しています。そこで、現在はバラバラに存在している地域活動の資源（人材、活動場所、活動資金、情報）の情報を一元化して共有し、地域の課題と結びつける新たなオンライン・プラットフォームを導入します。

市民が地域活動に参加することで地域が活性化し、地域の課題が自律的に解決されていく循環の仕組みを構築します。

オンライン・プラットフォームの構築により、一般市民が地域活動を知り、参加し、担い手へとコミットメントを深めていくなかで、**地域活動そのものが活性化していく「小さな循環」**を生み出します。さらに、地域活動に蓄積された地域の資源（シーズ）と、可視化された地域課題（ニーズ）を接続することで、**地域の活動で地域課題が自律的に解決されていく「大きな循環」**へとつながります。この二つの循環が相乗効果を生み出しながら“しくみ”として定着し、自走する状態を目指します。

■ オンラインPFでできること（ステークホルダーごと）

	課題	アクション (オンラインPFでできること/価値)	将来像
活動団体	- 活動リソース(ヒト/場所)の確保 - 活動の積み重ねの見えづらさ - 団体間の情報共有・連携の不足	- 新たな層へのリーチ/リソース確保 - 活動実績の蓄積・可視化、PR - 活動情報の共通基盤上での“一覧化”	- 新しい層の参加拡大/安定した活動継続 - 成果の可視化による意欲の向上 - 活動団体同士の連携・協業
一般市民	- 地域活動に関する情報の不足・散逸 - 活動に参加するきっかけ・タイミングが分からない	- 活動情報の集約・一元化、検索性の向上 - 基盤上での主催団体とのコミュニケーション	- 活動情報への容易なアクセスの実現 「関心をもつ→参加する」のスムーズな導線構築
行政	- 市内の地域活動を継続的に把握できていない - 地域の課題/ニーズの継続的な把握、市政運営への反映	- PF上の活動情報・参加状況のデータ収集・可視化 - ブロードリスニング機能による住民ニーズの収集、可視化	- ニーズとシーズの常時把握、地域活動を主体とした地域経営 - データに基づく透明性の高い市政運営

■ 地域の活動が活性化する“小さな循環”と、地域の活動で地域課題が自律的に解決されていく“大きな循環”の形成を図る。

